

—人も自分も楽しもう—

私の年賀状

山崎 晁秋

毎年十一月になると、年賀状を書くシーズンとなる。佐藤象雲主幹から「年賀状を書く手引きを」との依頼を受けたが、実は私も何の定見を持っていない。お引き受けしたものの、さてどう書いたら良いのか、原稿用紙に向かって苦吟している。ままよ！「私の年賀状」の書き方を御紹介しよう。と無責任なペンをとった。

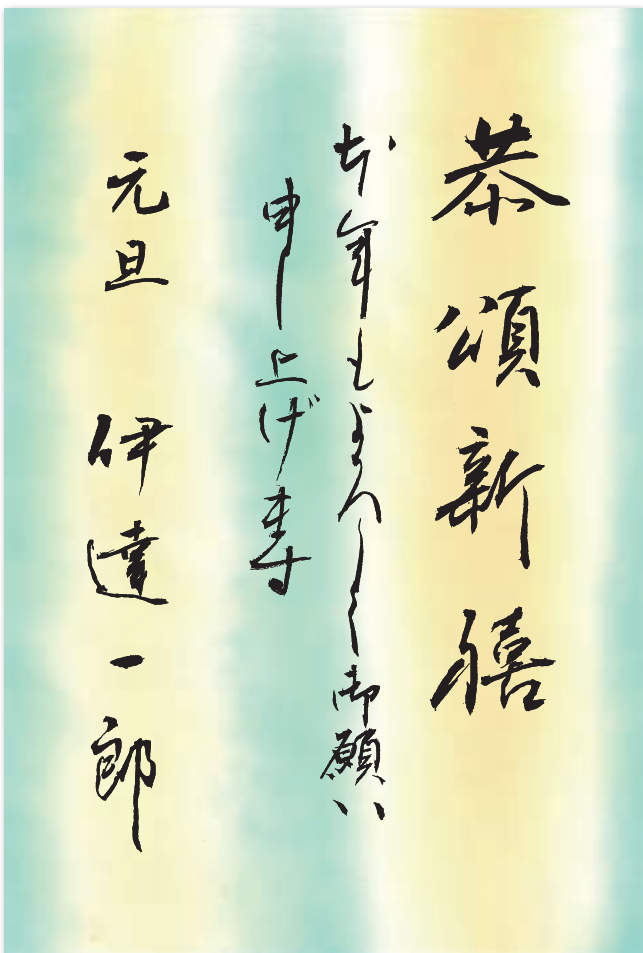
「目出度いから楽しもう」

終始これにつきるから、楽しく書く、という以外ない。これで終わりと言ったら実もフタもなくなるので、もう少し書かせて頂く。紙数が少ないので、詳しく書けないが、自分も人も楽しい年賀状というのが大前提で、これさえ出来ていたらどんな書き方、形式、でもすべて合格とって良い。

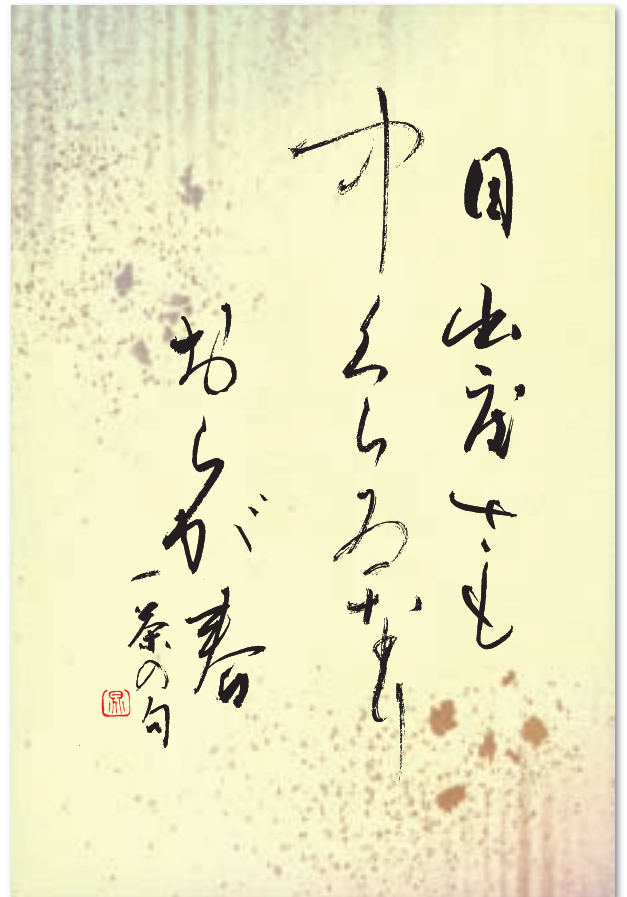
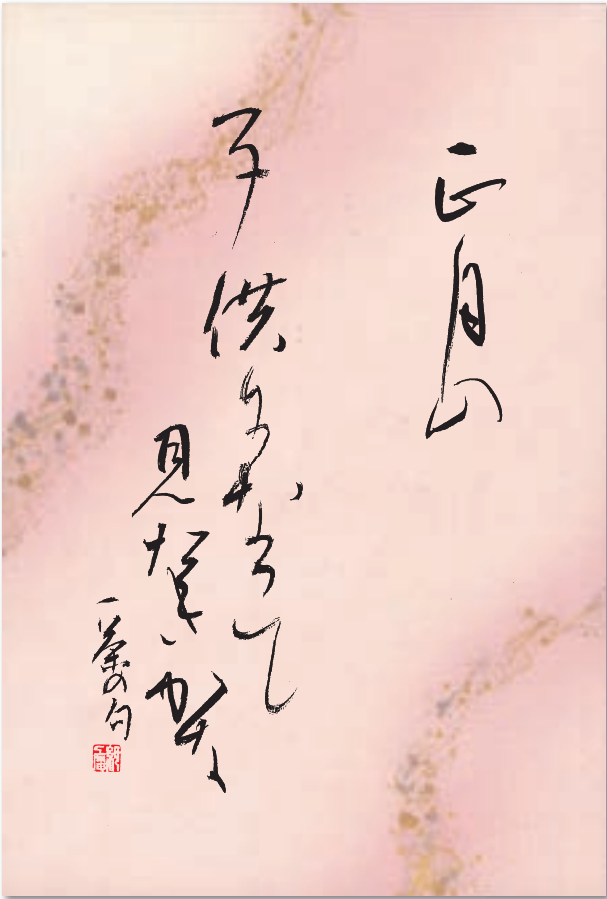
以下二、三、拙い私の賀状で、ご説明申し上げますと……。

一、一般年賀状の王道を行く形式である。

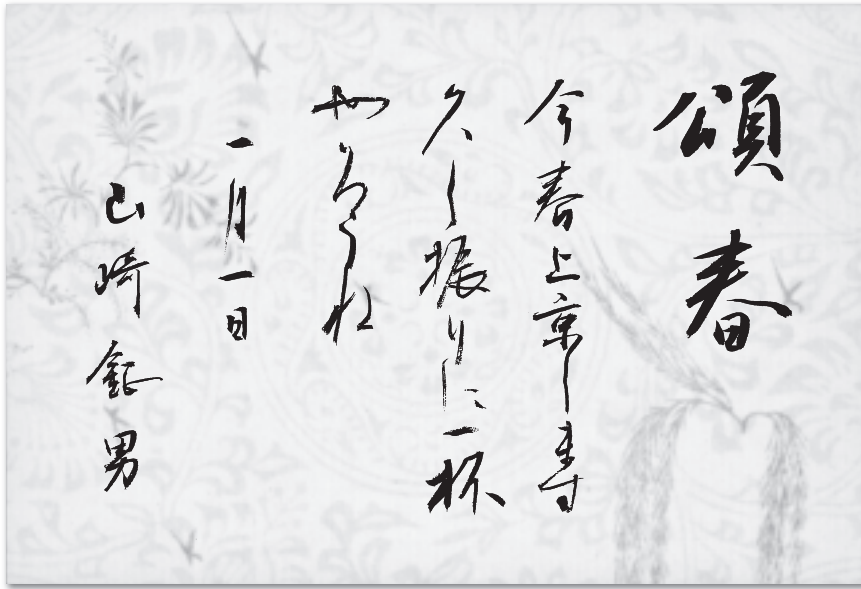
元旦の下には図の様に名前のみ書く場合もあるが、ここに住所を足したり住所印を押す人もいる。あまり皆がこう書くので、私は嫌いだが、四字句に何か新鮮な言葉を入れたら、面白くなるだろう。



二、和歌、俳句の目出度いものを、自分の今まで習った最高の技量を以って書く。書人の賀状としては、これが最も面白い。自詠であれば更に結構なのだが、私にはこの方ぜ口なので、いつも情無い思いをしている。絵心のある人は、なにか絵を添えるのもよい。彩色したり、版木を押ししたり、個性的な賀状には最適であろう。



三、親しい友人には、チョットした通信文を入れてみたら如何だろう。横形式の賀状は表現の中が大きく、わたしは好きである。
和歌を書くにはこの方が広く見えて書きやすい。



四、住所の書き方は、いろいろな手紙講座などで何ミリ上げて、何ミリ離してなどウルサク書いてあるのを見かけるが、わたしは一切無視。要は美しく収まっていればよろしい。
住所によっては、字数が多くなったり、何とか事業所、会場などまちまちだから、法則など設けようがない。但し配達する人が素人だから、読みやすく書くということが大切。

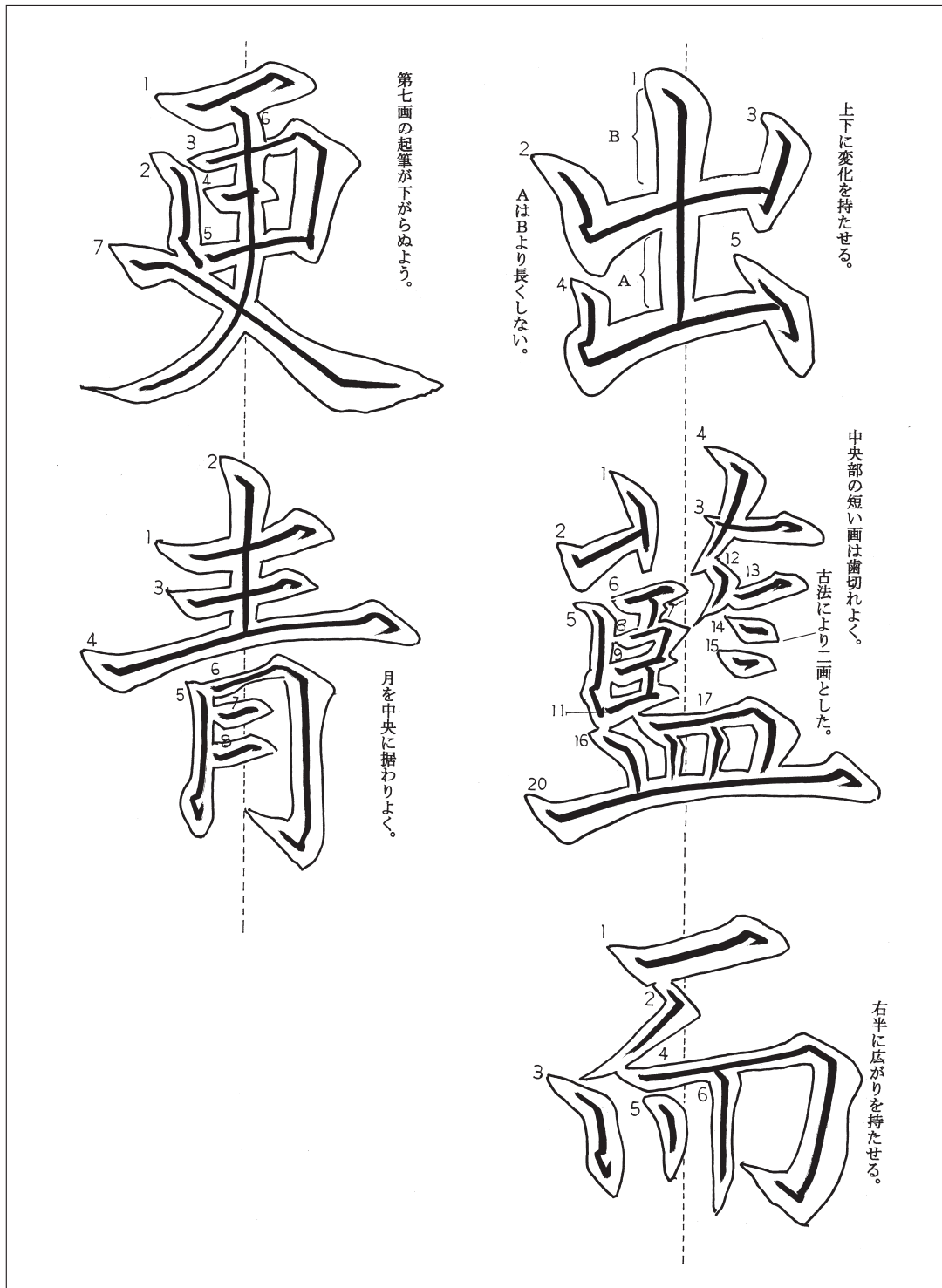


◎全体共通の問題として、漢字のくずし字変体仮名等は、必要とあらば大いに使ってよいと思う。少々字をくずしても慣用の熟語など案外読めるものだし、最低限度「年賀状」で中味など分からなくても、目出度いことに決まっているのだから、此の際大いに使うべし。
読めなければ、人に聞いても、調べても読むように「少しは自分で苦労してみなさい」というのが、わたしの考えである。
アチラの国では全然通じないカタカナ語を使うより、年賀状を読む勉強をしたら、日本文化の伝統を守ること大いに役立つのではないかと思うのだが如何かしら。それでは皆さん、大いに楽しい年賀状を制作して下さい。

読み
藍より出でて更に青し（門人が先生よりも一歩進んだ修養ができてきたことのため）
（荀子・勸学篇）

出 藍 而
更 青

佐藤象雲書



- 一般部規定課題出品について
- ・規定課題は段級の区別なく、右掲載の五字句となります。
 - ・初段以下の方に限り、左に掲載してあるように二文字または三文字でも構いません。
 - ・規定課題(楷書)の出品はひとり一点に限ります。

草書

行書

※成家・師範の随意作品出品は二点までです。

更青 出藍而

更青 出藍而

次号課題

隸書

寒雲掩 落暉

更青 出藍而

◇各体とも書風は自由です。特に上位者は古典などを参考に創意溢れる作品をご出品ください。

らくき おお
寒雲落暉を掩う

(両部とも本会所定の指定用紙を使用のこと)

	玉のぶとま 小春 日和を 授かり	支部 順位 氏名
--	---------------------	----------------

松本 たかし

和泉 溪石 先生書

禍 因 惡 積 福 縁 善 慶
 禍 因 惡 積 福 縁 善 慶
 禍 因 惡 積 福 縁 善 慶

佐藤 象雲 書

音

カイン アクセキ
フクエンゼンケイ

略解

禍を被るのは悪行の積もった結果であり、
幸福を得るのは、善行のたまものである。



孔瀆と顔母井の……

■ 史晨後碑

(後漢・西暦一六九年) の臨書 (20)

象雲臨

『孔瀆顔母井』

隸書は長期間にわたって用いられた書体で、それぞれの時代に違った風格があります。この史晨碑が書かれた漢代は隸書の成熟した時代で、初唐が楷書の頂点を極めたのと同様に、隸書の書法が頂点を極めた時代でもありました。書道史では漢代を過ぎると次第に隸書の風格が低くなり、特に力強さと気力という点では漢代に劣るとされます。しかし、明末清初になると金石学の発達により漢隸の研究が進み、多くの優れた隸書作品を発表する書人が登場することになります。

さて今月の五文字は、扁平というよりは方形の字がです。またすべての字に波磔がありますが、画数の多い字の波磔は母や井の波磔に比べて軽く書かれています。各線の特徴を把握し、風趣を再現してください。

知老之将至

老いの将まに至らんとするところを知らず

■王羲之・蘭亭序（東晋・西曆三五三年）の臨書（22）

象雲臨



『知老之将至』

王羲之の最高傑作といわれるこの蘭亭序は、清末の金石学者李文田りふでんによって、その信憑性に疑惑が持たれ、郭沫若かくもくじやくの蘭亭偽書説が発表されてから真偽両論が研究者の間で交わされています。その結論は未だ決定づけられていない状態ですが、我々学書者にとつての評価や価値は揺るぎないものとなっています。先日、宮城県芸術祭書道展の折に開催された伊藤滋先生の講演会で、先生所蔵の神龍本蘭亭序（王澍本）を拝見しました。唐時代の搨摹の専門家馮承素ふうじやうそが制作した摸本を刻したもので、真蹟系といわれて秘蔵されていた精拓だけのことがあり素晴らしいものでした。蘭亭序は王羲之が書いたかどうかという観点とは別に、千三百年以上前から変わらず多くの為政者や専門家に大切に保存されてきたという理由が少し理解できた気がします。